

# 托鉢の心

鳥取県 慈雲寺住職 引田佳山

今朝は托鉢の心と言うお話です。

私たちは、毎月一回僧侶四人のメンバーで托鉢をしています。托鉢とは、禅宗では布施の実践の行です。

では改めて托鉢とは、一つには、布施そのものが汗水流して得た清らかなものでなければなりません。これを浄財と言います。二つには、布施をする人の心の持ち方、それは何の思惑もない心です。三つには、布施をされた人の心の持ち方で、この布施が仏法の広がりにつながるように祈る心です。この三つが揃ってはじめて理想の托鉢となるわけです。これを三輪空寂（さんりんくうじゃく）と言います。ある日のことです。、道路に面した家の前にいつも整然と水やお花がお供えされているお地蔵さんがありました。私は何げなく、合掌し「オン、カー、カー、カビサンマーエイ、ソワカ」と三遍お唱えしふたたび托鉢に回り始めました。すると、後ろからその家の女性が追いかけてこられ、お地蔵様にありがとうございますと言って浄財を鉢に入れ、私が唱え事をしてる間、静かに目をとじ受けて下さいました。そして「ありがとうございます」と言い帰って行かれました。浄財を入れた人が御礼を言う、普通では反対に思われるこの行為が当り前に出来る素敵な女性でした。布施する人、受ける人、ともに精進する中で、「三輪空寂」の世界が世間に現れ広がっていく事を願い、これからも、托鉢を続けて行こうと思います。